

赤道付近でできる熱帯低気圧が勢力を増して日本に近づき、最大風速が毎秒(1…小数第1位まで°の数)m 以上になったものが台風です。ふつうは、夏の終わりがごろから秋にかけて日本に上陸し、洪水などの災害をおこします。また、今まで7月や10月ごろに上陸する台風はあまりなかったのに、その数が増えてきています。地球の温暖化による悪影響も各国でおきています。

## 日本の気候区

日本のように温帯な気候で、夏と冬の気温の差が大きく、四季の移り変わりがはっきりしている気候帯を(2…漢字で?帯)といいます。日本のほとんどがこの気候帯に位置しています。また、赤道近くのように一年中気温が高く季節の変化が少ない地域の気候帯は(3……漢字で?帯)といいます。

### ①季節風

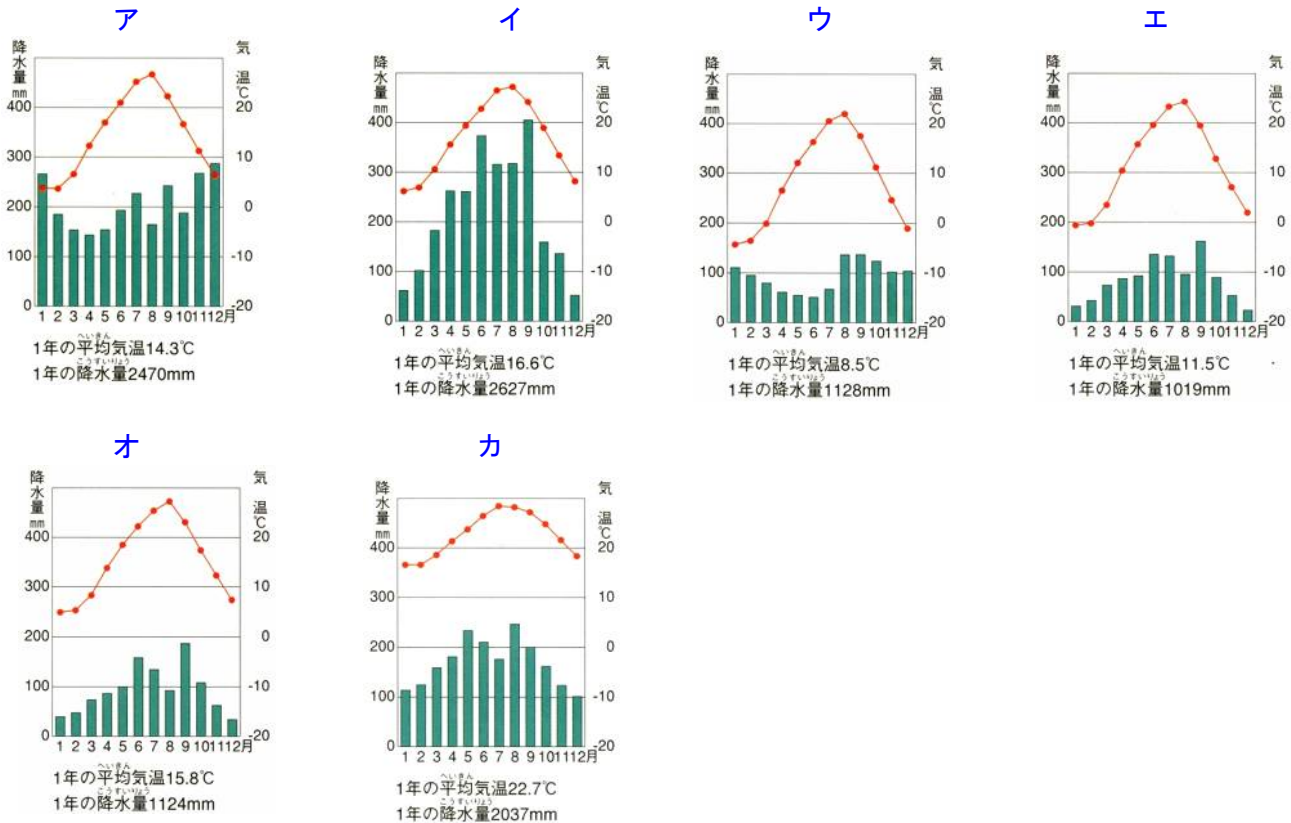
夏は、(4…風向で)の季節風が太平洋側に多くの雨を降させます。太平洋から大量の水蒸気を運んでくるためです。冬は(5…風向で)の季節風が、日本海側に多くの雨や雪を降させます。

### ②海流

日本はまわりを海に囲まれているため、日本の気候は海流の影響を受けています。世界一大きい(6…?海流)やこの海流から分かれて中国大陸と日本列島との間を流れる(7…?海流)の暖流や、北海道の東を流れている(8…?海流)などの寒流があります。

### ③梅雨(ばいう)

九州・四国・本州にかけては、6月半ばから7月半ばに梅雨の影響で雨が多くなります。この時期の雨も、大切な飲料水・農業用水・工業用水として人々のくらしをささえています。この時期に雨があまり降らないことを(9…?梅雨)といい、水不足や干害(日照りの害)の原因になることがあります。今まで、(10…8地方で)は亜寒帯という気候区分のために梅雨がありませんでしたが、近年は温暖化による影響でそれが崩れています。



### ①太平洋側の気候

太平洋側の夏は、**南東の季節風**の影響を受けて雨が多くむし暑い日が続く。冬は日本海側で雪をふらせたあとのかわいた**北西の季節風**がふくため、かんそうした晴れた日が続きます。6月の**梅雨**と9月の**台風**の時期は**降水量**がとくに多くなります。この気候の高知市のグラフは(11…記号で)です。

### ②日本海側の気候

日本海側の夏はわりあい晴れた日が多くなりますが、冬は**北西の季節風**が日本海のしめった空気を運んでくるために雪や雨が多く降り、**降水量**が多くなります。しかし、冬の気温は**暖流**の**対馬海流**の影響でさほど下がりにません。この気候の金沢市のグラフは(12…記号で)です。

### ③瀬戸内の気候

この地方は、四国山地と中国山地にはさまれているため、季節風がさえぎられて一年中雨が少なく**温暖な気候**です。6月の**梅雨**と9月の**台風**の時期は**降水量**がやや多くなるものの、1年を通して**降水量**が少ないことが特徴です。この気候の高松市のグラフは(13…記号で)です。

### ④北海道の気候

この地方は、冬が長く寒さのきびしい**気候**です。**気温**が0°Cを下回る月が3ヶ月もあります。ほかの**地域**ほど**梅雨**の影響を受けません。また、一年を通じて**降水量**が少ない**地域**です。この気候の札幌市のグラフは(14…記号で)です。

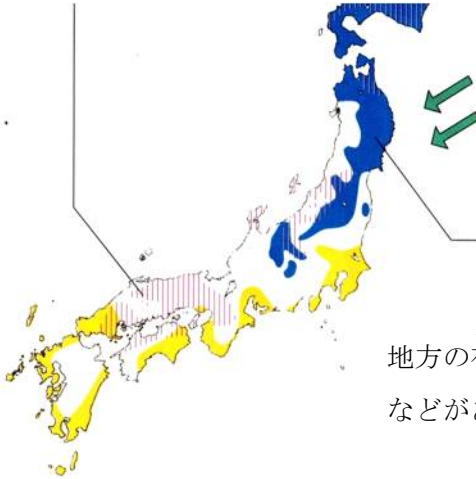
### ⑤南西諸島の気候

1年を通じて**気温**が高い**地域**です。**台風**の影響を受けやすく**降水量**が多いことと、**気温**が高いところにその**特徴**があります。この気候のグラフは(15…記号で)です。

## ⑥中央高地の気候

夏と冬の気温の差である<sup>ねんかくさ</sup>年較差と、昼と夜の気温の差である<sup>にちかくさ</sup>日較差が大きいことが特色です。まわりを山に<sup>かこ</sup>囲まれているためです。<sup>こうすいりょう</sup>降水量も少ない<sup>ちいさ</sup>地域です。1月と2月の気温は0℃を下回り、地面が<sup>こお</sup>凍ることもあります。この気候の松本市のグラフは(16…記号で)です。

(17)



水不足によって、作物が枯れてしまう害を(17…?害)といいます。

雨の少ない地域ではため池がつくられてきました。今はダムや<sup>ようすいろ</sup>用水路がつくられ、その被害は以前にくらべて減っています。

気温が高くなるはずの夏に気温が低かったり、<sup>にっしょう</sup>日照時間が短かったりすると、作物が大きな被害を受けます。

これを(18…?害。地図の<sup>あまみず</sup>青の<sup>なみ</sup>ところ)といいます。その原因に、東北地方の初夏に北東からふいてくる風の(19)や北海道の南東部で発生する(20…漢字で)などがあります。千島海流の上を通ってくる風が原因で発生する<sup>こ</sup>濃い霧の<sup>きり</sup>ことです。

北海道から中部地方にかけての日本海側は、冬に雪が多い<sup>ちいさ</sup>地域です。大雪のために家がつぶれ、交通機関や電気が止まるなどの被害を(21…?害)といいます。そのため、家のつくりをじょうぶにし、道路に<sup>しょうせつ</sup>消雪パイプをつくるなどをして被害にそなえています。

<sup>しよくりん</sup>植林によって<sup>すいがい</sup>水害を防ぐことができるのは、森林が<sup>あまみず</sup>雨水をたくわえて少しずつ川に流してくれるためです。さらに森林は根の力で地面をおさえてがけくずれも防いでくれています。そのため、森林は「(22)のダム」とよばれます。また、<sup>たいふう</sup>台風などが<sup>つうか</sup>通過するときにおこる海岸近くの海面が<sup>いじょう</sup>異常に高くなる現象を(23…漢字で)といい、<sup>じしん</sup>海底地震などが原因で海岸地方をおそう大きな波のことを(24…漢字で)といいます。

朝の<sup>ひ</sup>冷え込みがきびしいとき、(25…漢字1字)によって農作物が被害を受けやすくなります。作物をビニールでおおったりファン(<sup>せんふうき</sup>扇風機)で<sup>じゅんかん</sup>空気を循環させたりするなどして、この害を防いでいます。

地球全体が<sup>あたた</sup>暖かくなっており、とくに大都市の気温が上がりやすく下がりにくくなっています。

こうした都市部の気温が上がることを(26…?現象)といいます。また、最低気温が25℃より下がらない夜の<sup>や</sup>ことをいう(27…?夜)の日数が、30日前後になる年も<sup>めづら</sup>珍しくありません。

また、<sup>せきらんうん</sup>積乱雲が<sup>おびょう</sup>帯状に連続的に発生し、それが長時間にわたって同じ場所に大雨を降らせる(28…漢字で)という現象も増えています。局地的に大量の雨が降り続けるため、洪水や土砂災害がおこることがあります。

そして、<sup>にちちゅう</sup>日中の最高気温が30度以上の日のことをいう(29…?日)、最高気温が35度以上の日を(30…?日)といいます。また、<sup>にちちゅう</sup>日中の最高気温が0度未満の日のことは(31…?日)といいます。

また、人々は昔から、「(32…鳥名)が低く飛ぶと雨になる」など、雲・風・動物などの自然を観察して、天気を予想してきました。現在では日本や世界各地で観測されたデータや、気象衛星からの情報などを分析して、天気予報が行われています。